

米沢市教育委員会 会議録

令和 7 年 1 0 月 1 0 日 (金)

開会 午前 8 時 3 0 分

閉会 午前 9 時 5 5 分

1 出席委員等

教育長 佐藤 哲 委 員 神尾 正俊 委 員 我妻 仁
委 員 渡邊 美智子 委 員 伊藤 綾子

2 出席職員

教育管理部長	土田 淳	教育指導部長	山口 博
教育総務課長	遠藤 秀一	社会教育文化課長	高橋 允
社会教育文化課主幹兼課長補佐	伊藤 昌明	スポーツ課長	高橋 稔
学校教育課長	須貝 洋介	適正規模・適正配置推進主幹	森谷 純
教育総務課長補佐兼総務主査	米原 裕美	教育総務課上席専門員	森谷 幸彦

3 傍聴人の有無 無

4 本議席の指定

5 会議録の承認

令和 7 年 8 月 7 日開催分

6 議事

議第 3 7 号 臨時代理による令和 7 年度一般会計教育関係補正予算（第 2 号）の承認
について

7 報告事項

- (1) 第 1 8 回秋山庄太郎記念米沢写真文化賞の審査結果について
- (2) 令和 7 年度全国学力・学習状況調査の結果について
- (3) 非公開案件
- (4) その他

8 その他

教育長 はじめに、この度、市議会の同意を得て我妻委員が再任されたので、改めて本議席の指定を行う。1番に教育長職務代理者の神尾委員、以降は選任順に2番我妻委員、3番渡邊委員、4番伊藤委員とする。

次に、会議については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定により原則公開となっているが、本日の会議の案件のうち報告事項（3）については、政策協議に関わる案件であり、まだその内容が確定したものではないことから非公開としたいと思うがご異議ないか。

———異議なし———

教育長 本日の会議は一部非公開とする。次に会議録の承認であるが、8月7日開催の会議録についてご承認いただけるか。

———会議録の承認———

教育長 本日の会議録の署名委員として我妻委員を指名する。議事に入る。議第37号臨時代理による令和7年度一般会計教育関係補正予算（第2号）の承認について、事務局から説明をお願いします。

教育管理部長 ———資料により説明———

教育長 ご質問等いかがか。なければ議第37号令和7年度一般会計教育関係補正予算（第2号）の承認について、ご承認いただいてよろしいか。

———異議なし———

教育長 ご承認いただいた。次に報告事項に入る。（1）第18回秋山庄太郎記念米沢市写真文化賞の審査結果について、事務局から説明をお願いします。

社会教育文化課長 ———資料により説明———

教育長 ご質問等いかがか。私からお聞きするが、写真展への応募数の減少は全国的な傾向ということか。

社会教育文化課長 審査委員から聞いた話によると「様々な写真展の審査を行っているが、いずれの写真展も昨年と比べて急に応募数が減っている。これが単なる人口減少の影響なのか、その原因については特定できていない。」ということであった。また「直近では飯坂地区での写真展の審査を行ったが、同じような傾向であった。」とのお話もいただいており、このような傾向は北日本に偏ったものなのかもしれないが、担当課としては原因の特定はできていない。

我妻委員 米沢市民の応募者が12人と少ないような気がする。市内にも写真愛好家がおおり、芸文協加盟団体などに加入されている方もおられるのではないと思うが、そのような方々はこの写真展に重きを置いていないから応募されないのか。担当課としてどのように考えているか見解を伺いたい。

社会教育文化課長 そもそもこの写真展は、本市ホームページで周知することにより全国

から広く作品を募集しているものであり、米沢市内の方々に限定して周知しているものではないことから、関心を持たれている市内の方が少ないのではないかとと思われる。

教育長 昨年の展示会で入賞作品を拝見したが、手元にある印刷資料とは違い実際の写真は迫力があるので、ぜひ展示会に足を運んでいただきたいと思います。
他に御質問等いかがか。なければ、次に（２）令和７年度全国学力・学習状況調査の結果について、事務局から説明をお願いする。

学校教育課長 ———資料により説明———

教育長 ご質問等いかがか。

神尾委員 先日開催された公開研究発表会で南原小学校と西部小学校の授業の様子や先生方の話し合いを見せていただいた。ＩＣＴを活用した素晴らしい教育が実践されており先生方に敬意を表したい。また、先生方の一所懸命な毎日の学習、授業への取組の一端を見せていただき感銘を受けたところである。
資料３ページの小学校国語の分析結果を見せていただくと、説明があったとおり「読む力を付けることが課題である」との記載がある。中学校も同様に「読む力、読み取ることの難しさがある」とのことであったが、読む力を付けるというのは一朝一夕にできるものではない永遠の課題であるとともに、読み取る力は当然のことながら算数、社会、理科などの教科にも必要な大事な力ではないかと思う。この調査の今年度の問題は見えていないが、おそらく国語の問題文は相当長く、読み取ることが難しい子どもが多かったのではないか。問題文を読み取る力を付けるためには、本や新聞などの活字に目を通して読むという幼少期からの習慣づくりが大事であると思うが、例えば、朝読書の時間を設けても本を読む子どもは一所懸命読むものの、図鑑のようなものを見ている子どもや読書に集中できない子どももいるのではないかとと思われるので、やはり就学前の幼少期からの読み聞かせや、本市でも取り組んでいるブックスタートなどの取組が重要なのではないかと資料を見て改めて感じたところである。
一つ質問があるが、学校において新聞をどの程度学習に取り入れているのか。小中学校やそれぞれの学校ごとでも異なると思うが、新聞を使った取組というのは現状どの程度行われているのか分かる範囲でよいので教えてほしい。

学校教育課長 新聞については、中学校３年生と特別支援学級において１クラスに１部ずつ、県の補助制度を活用しながら市の財源も使って購入しており、学校によっては複数の新聞社の一面を掲示板に貼り出し、その日のトップニュースが読み比べできるように取り組んでいる学校がある。また、お昼の放送で気になる記事を委員会で発表している学校や普段の授業の中で新聞を活用している学校もあるが、学校の時間の中で紙面をじっくり読む時間は確保できていないという現状がある。トピック的に授業で使っていることでどこまで読む力が伸びるか

というとなかなか難しいという課題がある。

教育指導部長 補足になるが、昨年度から万世小学校でN I Eに取り組んでいる。

神尾委員 新聞を使って読み取る力を付けることは難しいというのはお答えのとおりかと思うが、I C T活用が進んだことなどにより画面上の文字を見る機会が多いものの、本や新聞などの活字を見る機会が少なくなっているのではないかと思いますので質問させていただいた。

教育長 今回の問題は、国語、算数ともに一筋縄にはいかないものであった。算数についても選択問題は答えられるが、問題文が長いために記述問題が難しく、一夜漬けが効かないものであったので、様々な情報を整理して自分のものにする力を付けさせる必要があると考えたところである。

我妻委員 私からは二点お聞きしたい。一点目は先日の公開研究発表会に参加させていただき、西部小学校の授業の様子を拝見させていただいたが、各学年とも子ども達は授業に集中して取り組んでいた。先生方の授業の内容も目標を立てられてどのように手立てを講ずれば理解度が高まるのか工夫されており、いろんな材料を使ったりして熱心に取り組んでおられた。また、それを聞く子ども達の態度も真剣であり、授業改善の取組などについても先生一人ひとりが努力し、学校全体で取り組んでおられると感じたところである。ただ気になったのは5年生の算数の発表資料の中に「総じて算数に苦手意識を持っている児童が多く、九九がまだ定着していない児童や割り算を正しく計算することができない児童、課題の内容が正しく理解できない児童が一定数いる。」との記述があったことである。これは客観的な評価であり、当然のことながら児童全員が理解することは難しいと思うが、5年生であれば九九や割り算について、ある程度のレベルに到達していなければならないにもかかわらず、それらベースとなる基礎が身に付かないまま学年の単元を過ぎて進級し、基礎を応用する学年になったことによって苦手意識ができてしまい、ますます分からなくなっていくという負の循環に陥っているのではないかと。これはある程度仕方のないことだとは思いますが、このような子ども達に対して、現在、小学校レベルで具体的にどのような手立てを講じているのか伺いたい。私が子どもの頃とは時代がまったく違うので比較はできないが、当時は単元ごとのテストで点数が低かった子どもに対しては、理解度を高めるために少し居残り学習をすとか、他の子ども達とは別の課題を出して家庭で取り組んでもらうといったことは結構あったと思う。学校ごとに異なるとは思いますが、今もそのような取組はされているのか。誰一人取り残さないということは難しいが、基礎が定着していない子ども達に対するフォローが十分ではなく、そのような課題を抱えていることを先生方も認識したうえで、どのように対処したらよいか悩んでいるのではないかと思います。今回の調査でも家庭学習の時間が足りないという結果が出ており、家庭に対するアプ

ローチは難しいと思うものの、やはりある程度一つひとつの単元の中でそれをクリアできない子ども達に対する個別のフォローについて、課題のプリントを出すなどいわゆる個別最適化という形で行っていただければありがたいと思う。自学の良さもあると思うが、それぞれの自主性に任せるだけではなく、先生方が授業の中で評価したそれぞれの子どもの到達度に応じて、家庭の中で取り組むべき課題というものを各家庭に積極的に提示していただきたいと思う。二点目は、神尾委員がおっしゃったように国語の課題として挙げられている読む力、目的に応じて文章と図表を結び付ける能力に課題があるというのはいわゆる「イメージ同定」、読み取る力が課題として残っているのだと思う。算数ができない、数学ができないというのも算数的な思考が弱い、数式を覚えていないということだけではなく、総じて読解力というのが不足しているために、そもそも問題文を正確に読み取ることができないということが明らかになっているので、ぜひ以前から申し上げているようにリーディングスキル、読解力を高めていく手立てを講じる必要があると思う。そういった意味では今年度、リーディングスキルテストに取り組んでいる自治体を視察できるかもしれないので楽しみにしているが、相馬市などリーディングスキルテストに取り組み10ポイントほど成果が上がっている自治体もあるようなので、米沢市でも早期に研究していただいてリーディングスキルテストに取り組んでいただければと思う。いずれにしても様々な環境問題を抱えているために家庭での学習時間が取られない、あるいは学習をしない子ども達をどうサポートしていくかが課題であり、これは教育委員会だけで解決できるものではないと思うので、福祉部門などとも連携し、研究しながら家庭の状況に応じたアプローチをしていただければと思う。

学校教育課長 様々教えていただき感謝申し上げます。まず、九九が定着していない、または苦手意識を持っている子どもに対してどのように指導しているのかというご質問であるが、現状では居残り学習などは行っていない。特に中学校の場合、居残り学習によって部活ができないということになれば、これもまた子どもにとって不利益が生じることになるので、居残り学習はできる限りしないように学校には指導している。しかしながら、もちろん子ども達に対して個別に指導することは必要なことであるので、だからこそ授業の中で先生が一方的に教えるだけではない主体的な学び、自分で進めていく学びが必要になるということだ。各校も研究に取り組んでいるということだと思う。自分で力を伸ばせる児童生徒もいれば、やはり個別に直接教えてもらいたいという子ども達もいるので、先生方や学習支援員なども加わりながら、子ども達に寄り添って教えることの大事さについては、より一層研究していきたいと思っている。自学の良さもあるが取り組むべき課題があるということも大事だと思っている。各学校でも課

題の出し方についてはいろいろ考えていて、ある学校ではＩＣＴのドリルを積極的に使っており、これには問題の正答率等にあわせて新たな問題が出るという機能もある。しかしながら、それですべてが賄えるというわけではなく、もちろん教師によるその子の力の見取りも大事なことだと思うので、あわせて学校と研究を深めていきたいと思う。また、二点目のリーディングスキルについてであるが、こちらも重要だと思っている。今回の全国学力・学習状況調査でも長文を読み解くような問題となっており、読み解くだけであきらめてしまう子ども達もいるだろうと思う。やはり読み切ること、そして内容を把握することによって普段の努力が必要であり、リーディングスキル向上の取組が必要であると思っている。朝読書ではなく「読み方レスキュー」というドリルに取り組んでいる学校もある。市内統一した取組にはなっていないがこれが大事であるということ、また、リーディングスキルを高めるために何ができるかということをお私達も勉強しなければならないと思っている。それとあわせて教科ならではの基本用語を理解していないと問題が解けないということもあると思うので、そのような基礎、基本というものも大事にしていきたいと思っている。

我妻委員 おっしゃることは十分理解できるし、居残り学習によって部活ができなくなる子どもから「どうして私は部活できないのか。」とか、その保護者から「なぜ居残りさせて部活をさせないのか。」という話があるかもしれないが、そこはやはり一歩踏み込んでほしい。例えば、一人二人といった少人数を残す方法や様々な形でピックアップした子ども達に残ってもらう方法など、居残り学習には様々なやり方があり、その方法は各学校で判断せざるを得ないのかもしれないが、十分な理解度に達していない子ども達が、家庭学習もせずにどんどん取り残されていくことを防ぐためには、「部活をしなければいけないから、居残り学習ができない」という壁はぜひ破っていただきたい。また、学習支援員の方々がそれぞれの学校でどのような形で何人関わっておられるのか、子ども達をどのようにサポートしているのかわからないが、例えば、先生方が非常に忙しい中、学習支援員が子ども達の間テストや単元テストなどを見て、児童生徒個々の足りないところを把握し、個別にプリント等を作成して渡していくなど、大変だとは思いますが何らかの形で教師と学習支援員の方が連携し、工夫しながら個別最適な対応に取り組んでいただきたいと思う。

教育長 総合学力調査の結果から、個人にあったドリルなどを使ったりして個別の課題、個々に違った問題に取り組むこともある。また、市内には生徒一人ひとりの習熟度にあわせて最適な問題を出題する教材「キュービナ」を活用している中学校もある。

教育指導部長 今、教育長からも話があったが、以前は、子ども達のそれぞれの課題に適した教材としてプリントを使っていたが、現在は、ＡＩやデジタルのドリルが

使えるよう市内すべての学校に導入している。また、第二中学校ではそれよりも高い機能を持った「キュービナ」というドリルを5教科で使い始めており、成果が上がっているとの報告をいただいている。これらのドリルに取り組む時間については、それぞれの小中学校で工夫しながら捻出しているところであるが、例えば、これまで毎日行っていた掃除の時間を週2、3回に削りながら、15分、25分という時間を確保し、チャレンジタイムとしてキーボードの練習やドリルに取り組む時間、基礎基本である100マス計算や音読などの学習に取り組む時間として設定している学校が増えている。

教育長 現在はAIを活用することで、間違ったらそこに遡って取り組むなど9年間を通して個別の問題が出題されるというシステムがあるので、以前のように個々の子どもにあったプリントを作成して配ることなく、個別に先生が指導する時間にあわせて自分が苦手な箇所が学習できるようになった。

我妻委員 それは学習支援員の方がサポートしているものなのか。

教育指導部長 米沢市が配置している適応指導補助員、学習支援員は、授業中に個別にサポートするという関わりが多いと思う。例えば、スクールサポートスタッフについては、プリントやドリルの準備に携わっている者もいるかもしれないが、直接学習支援員が行うことはなく、実際には学級担任や教科の担任、ICT支援員が行っている。

教育長 他にご質問等いかがか。

渡邊委員 私からも重複しての感想、お願いになる。先日、南原小学校の公開研究発表会を見せていただいて、少人数だからこそできるような取組や自由な環境での学習活動、また縦割り学習ということで、1年生は2年生、2年生は3年生が面倒を見て、そして6年生は全体を見渡しての学習に取り組んでおり、自分たちが作ったものを下級生たちにも見せて一緒に感動するというような暖かな雰囲気の中で学んでいた。先生方も一所懸命事前準備をされ、解答に導くというよりは児童が自分なりに考え推測し、自分なりの言葉で発表するように見守っていた。時間がないとできないものもそういった取組をしながら、自分の考えをまとめてチャレンジしていくといったことに重きを置いて表現する力、推測する力といった主体的な学びに取り組んでいる姿を見て、この度の調査結果との間に乖離があると思ったところである。素晴らしい授業と環境の中で学んでいるにもかかわらず、全国平均等と比較してこのような調査結果になったことに對し、何が足りないのかを考えたときに、やはり神尾委員や我妻委員もおっしゃった国語力が不足しているのではないかと思う。国語力はすべての学びの土台ではないかと考えており、まずは活字を読むこと、次にそれに対して自分なりの考えを持ち、物語であったら主人公や登場人物の考えを感じ取る、そしてそれらのことから想像して自分の言葉で表す。そこまでが一通りのことかと考

えると最初の読む、読み取る力の差が一番大きいのではないか。土台の部分が少し弱い傾向があると分析結果がまとめられているので、読む力が弱いとすべての教科において成績を伸ばしていくというのが難しいのではないかと思った。私の子どもも小学校低学年の頃、「国語の文章に何が書かれているのか分からない。」というような状況であった。私自身は子どもが小さいときに読み聞かせをしていたつもりだったが、子どもは漠然と聞いていたのかもしれないと考え、3、4行に要約したようなプリントやドリルなどを購入して読み解く学習をするようにしたところ、本人はやる気があったかどうかは分からないが、最終的には私の手から離れ、それほど長文が苦手ではなくなった。ただ、子どもが言うには「高校生になると数学も膨大な問題文を読み取ることが必要になるが、問題文に何が散りばめられていて何を問われているのか、また何を答えなければならないのか読み取ることが難しい。」ということであった。このように数学とはいえ、様々な要素が散りばめられているところから読み取る力が求められていると考えると、米沢市で第3期子ども読書活動推進計画を基に取り組みされている幼少期からの読書活動が大切なのではないかと思った。また、この計画では身近なところにある学校図書の充実を進められていると思う。子ども達に「とにかく読書しなさい。」「活字を読みましょう。」と言ってもなかなか難しいのではないかと思うが、まずは自分が好きな分野や興味を引かれた図書からでよいので、読書ができるような環境整備として学校図書の充実を図っていただいて、最終的には学力の向上につなげて行けたらよいと思った。

伊藤委員 私も先日、西部小学校の公開研究発表会を見させていただき、普段の子ども達の授業が先生方の手によりどのようにつくられているのか見る事ができた。私が子どもの時と違い、子ども達が発言する場があり能動的に意見を出し合いながら授業が進められていた。資料には「表現する力が足りない」とあるが、授業では表現する場が多くありがたいと思った。また、「ICTを活用した学習が増えた」とあるが、中学生、特に第二中学校は「キュービナ」を使っていてICTを活用されている一方で、小学生はタブレットを充電のためだけに自宅に持ち帰っている。スライドをつくるなど素晴らしい取組はあるものの、中学校は個別最適化で作成されているのに対し、小学校ではそのような取組がなされていないのではないか。何か取り組まれているのであれば伺いたい。また、小中学校ともに家庭学習にあまり取り組んでいないとのことであるが、学校として子ども達に家庭学習を促すような対策をされているのか伺いたい。

学校教育課長 具体的な例を挙げいただき感謝申し上げます。第二中学校など先進的に取り組んでいる学校があり、また、小学校においても自宅にタブレットを持ち帰って家庭学習に使っているという学校もあるようだが、学校によって差があるというのが現状だと思っている。教育委員会としても、先ほど教育指導部長か

ら説明のあったデジタルドリルを各学校に導入できるよう予算化して進めているところであるが、その活用については、先ほど我妻委員のご意見にあった家庭学習と関連付けて、さらに進めていくことが課題であると考えており、私共としても学校間の差を埋めていくような取組とともに、ドリルの使い方などについても研修等に組み込んだりしているところである。

教育長 本日は貴重なご意見をいただいたので、教育委員会内や校長会などとも共有しながら漫然とした取組ではなく、読む力を付けられるよう取り組んでいきたいと思う。

我妻委員 渡邊委員がおっしゃった読書の大切さについてはそのとおりであり、なかなか図書館に行けないような子どものことを考えると学校図書の充実が大切ということもそのとおりだと思うが、学校においては予算的な事情から本を購入できないということもあると思うので、例えば、学校ごとの取組になると思うが、地域の方にリユースで本を寄贈していただけるよう「このような本を子ども達に読ませたいが、持っている方はぜひ寄附してもらえないか。」などと呼びかける取組もぜひ試みていただければと思う。また、家庭での読書というのは非常に大切であり、読み聞かせの段階から自力で本を読めるようになることが大事だと思うが、学力調査の文部科学省の分析などによれば、書籍が全く、若しくはほとんどない家庭があるなど、家庭にある本の数が子ども達の学力に影響しているということであった。社会教育文化課の所管になると思うが、米沢市では「家読」を推進していると思うので、子どもと一緒に親が本を読むなど家庭のサポートにより力を入れ、読書が定着するよう「家読」を推進していただくよう要望する。

社会教育文化課長 社会教育文化課では主に市立図書館の事業として、先ほど話のあったブックスタートや読み聞かせに取り組んでいるが、今回のご意見を踏まえ、市立図書館と連携を図りながら、もう少し強化を図ってまいりたい。

教育長 他にご質問等はいかがか。なければ（３）について、事務局から説明をお願いする。

———（３）非公開———

教育長 他にご質問等いかがか。なければ次に（４）のその他であるが、事務局から何かあるか。

社会教育文化課長 私から「上杉本洛中洛外図屏風」の保存修理に伴い実施したガバメントクラウドファンディングについて、１０月５日をもって募集期間を終了したのでその結果を口頭で報告する。ガバメントクラウドファンディングの実施については、７月８日開催の教育委員会において説明したところであるが、結果としては７月８日から９０日間の募集期間において、目標金額６００万円に対して３４１名の方から７６０万５，５００円のご寄附があり、達成率としては

126. 7%であった。なお目標金額を超える寄附金については、以前説明したとおり本市の文化財保護のために役立てていくこととしている。

教育長 ご質問等はいかがか。なければ6のその他について、委員の皆様からご質問等いかがか。

我妻委員 今年は異常に熱い夏だったが、小中学校の学校教育活動中や部活動中において、熱中症の症状が出て対応せざるを得なかった、あるいは救急車を呼んだ、校内で処置したというケースはあったか。

学校教育課長 熱中症の疑いで救急搬送した件数をはっきりと申し上げることはできないが数件あった。ただし、いずれも心配して救急搬送したものであり、実際に病院で処置してもらった結果は軽度の熱中症ということで特段大きな処置をしたことはなかった。学校の方もかなり敏感になりながら大事を取って対応している。

我妻委員 それらのケースは授業など学校教育活動中に発生したものか。

学校教育課長 体育の授業中の場面もあった。部活動中の対応ということもあったので、主に体育活動中のケースが多かったと思う。それ以外でも少し具合が悪いということで対応したケースや修学旅行先で一緒にいた2名を救急搬送したこともあったが、いずれも大事には至っていない。

我妻委員 このことに関連して、今年からスポットクーラーを小中学校の体育館に導入したわけだが、その効果はいかかなものであったか。昨今、体育館への冷房装置設置を望む声もあるわけだが、通常の活動はスポットクーラーだけでは難しいのか。実態としてはどのような状況か。

学校教育課長 まずは暑さ指数を見て運動できるかどうか判断しており、無理な日には運動をしないことにしているので、どうしても冷房装置が必要な状況にはないと思われる。また、活動中もこまめに水分補給しながら適宜休憩をとるようにしており、その際にスポットクーラーでクーリングするようにしている。部活動終了後にはエアコンで冷やした教室内で10分から15分程度クーリングしてから帰宅するというのを徹底するなど工夫をしている。すべての施設にエアコンが整備されていればよいことに間違いはないが、現在のところはスポットクーラーを有効に活用しながら活動できているものと考えている。

我妻委員 休憩の際のクーリングという意味では、スポットクーラーは非常に役に立っていると考えてよいか。

教育長 空間全体を冷やすことはできないが、運動中に体をクーリングするためのシステムを構築している。その他ご質問等いかがか。

伊藤委員 先日、丸の内地内にクマが出たが、保護者の方々から「クマに出会った時の対処方法が分からない。」という声をよく聞く。クマへの対処方法については諸説あるようなので、学校で子ども達や保護者に対し、クマへの対処方法を説明

する機会を設けるよう検討していただけないか。

学校教育課長 クマが出没した場合には、当初、先生方にも見守りをお願いしてきたが、先生方自身もどのように命を守るのかということに関しては心配している。クマに出会ったら「目をそらさずに後ずさりするとよい」とよく言われてもいるが、本当にそれが有効かどうかは分からないので、今すぐに具体的な対策はお話できないが、クマから身を守る方法について情報を集めていきたい。

我妻委員 出会わないようにするしかないという専門家もいるようだ。よく言われる対処法も偶然成功しただけだという説もあるので、対処法を断定するのは難しいと思う。

教育長 少し研究させていただきたい。その他事務局から何かあるか。

学校教育課長 第二中学校で発生した電気火災について報告する。発生日は9月1日で当日の朝、職員室に出勤した教頭が職員室内に白煙が立ち込めているのを発見した。結果的には窓際の壁面に設置している扇風機からの発火であった。コードがショートしてそこから発火したと思われるが、大事には至らず一部が黒く焦げた程度であった。ただ電気コードが焼け落ちてしまったために、その下にあったパソコン等が溶ける、焼ける等の被害があった。消防署員にも現場を見てもらい通常どおり授業を行ったところであるが、発火原因がどの学校にもある電気機器であり非常に心配であったことから、再度、各学校に対し電気機器等が適切に配線されているかの確認とコンセント等の掃除等を促すとともに、危険箇所がないかという確認を行ったところである。

教育長 この件に関しご質問等いかがか。その他いかがか。なければ以上をもって教育委員会を閉会する。